

くま小通信

第7号 令和3年6月2日
名古屋市立熊の前小学校
名古屋市緑区亀が洞一丁目901番地
Tel: 052-878-1600
http://www.kumanomae-e.nagoya-c.ed.jp



各記事と「学校教育目標」(第1号参照)の関連を、次のように文末に示しています。

(1) 基礎基本を身に付け、自ら学ぶ力を備えた子の育成 → 【①自ら学ぶ力】

(2) 思いやりの心・社会の一員としての自覚を備えた子の育成 → 【②思いやり・社会性】

(3) 生涯にわたって健康に過ごすための心身を備えた子の育成 → 【③心身の健康】

スポーツデー後、6年生みんなで記念撮影。小学校生活のよい思い出になりましたね。



赤組の粘り及ばず、白組に軍配

真剣勝負に輝く笑顔!
スポーツデー
熊の前

5月29日(土)に、熊の前スポーツデーを開催しました。例年より梅雨入りが早く、天候が心配されましたが、当日は朝から美しい青空が広がっていました。最高気温は28℃と、暑い中での開催となりましたが、時折雨が降ったり、心地よい風が吹いたり、まさにスポーツデー日和の天候でした。コロナ禍に負けず、毎日頑張っているみんなへのご褒美かな、と感じました。

子どもたちが繰り広げる熱戦は、どれも見応え十分でした。今年度新たに採用した2学年ごとの応援合戦も、スポーツデーに花を添えていました。また、今年は得点制を採用しました。結果としては、赤組が粘る白組を振り切り、9対6で接戦を制しました。しかし、勝ち負けに関わらず全力を出し切る姿、互いの健闘をたたえ合う姿が随所に見られ、熊の前の子どもたちのすばらしさを、改めて感じることができました。

保護者の皆様には、当日に至るまでの準備やお弁当作り、感染症対策等、多大なお力添えを賜りました。おかげさまで、スポーツデーを充実したものにすることができました。開催へのご理解とご協力、誠にありがとうございました。

【①自ら学ぶ力】
【②思いやり・社会性】
【③心身の健康】

「熊のうずしお」

5年生の1つ目の競技は、「熊のうずしお」。チームの息を合わせて効率よくコーンを回る姿は、「さすが高学年!」と感じさせるものでした。



「熊野運輸～今行きます～」



2つ目の競技は、「熊野運輸、～今行きます～」。後の走者になるにつれ、持ち運ぶ段ボールの数が増えるリレーです。

途中で落としてしまうハプニングもありましたが、それがこの競技の面白いところ。白熱の戦いに、とっても盛り上がりました。

5年生

2年生

「赤白対抗リレー」

2年生の1つ目の競技、「赤白対抗リレー」は、引いたくじの色に応じてコースの長短が決まるというユニークなルール。



くじ運が勝敗の行方を左右するリレーに、会場も沸きました。

「まほうのじゅうたんにのせて～大玉運び～」



2つ目の競技は、「まほうのじゅうたんにのせて～大玉運び～」。4～5人のグループで、力を合わせて大玉を運びました。

どのグループも、声を掛け合いながら、上手に大玉を運ぶことができていました。

「ダンシング玉入れ」

1年生の1つ目の競技は、「ダンシング玉入れ」でした。みんな、上手に玉を投げ入れていました。

玉入れの前のダンスがとってもかわいらしくて、会場全体がほっこりした空気に包まれました。



1年生

「GO!GO!台風ーン」

4年生の1つ目の競技は、「GO!GO!台風ーン」。いわゆる「台風の目」です。第2回戦は、じゃんけんに勝つまで先に進めないという特別ルールを採用。

偶然性が勝敗を分ける競技の楽しさに、会場が盛り上がりました。



4年生

「かけっこ」

2つ目の競技は、「かけっこ」でした。直線コースを全力で走り抜きました。



小さい体で精一杯走る姿に、観客の皆さんも釘付けになっていました。1年生のみんな、とってもかっこよかったですよ！

「赤白対抗リレー」

2つ目の競技は、「赤白対抗リレー」。こちらは、シンプルなりレーでしたが、4年生ともなると、スピード感が違います。



全力で走り、必死にバトンをつないでいく姿は、見ている人たちの心を動かしました。

「赤白対抗ドッジボール」

3年生の1つ目の競技は、「赤白対抗ドッジボール」。グループに分かれ、前後半合わせて計16ゲームを行い、その勝利数を競いました。赤白の力が拮抗し、手に汗握る熱戦が繰り広げられました。



3年生

「棒引き」

6年生の1つ目の競技は、「棒引き」でした。体の大きい6年生が、互いの力を存分に出し切って棒を引き合う姿は、まさに圧巻。子どもたちの「本気」の戦いに、会場から大きな拍手が送られました。



「短距離走」

2つ目の競技は、「短距離走」でした。トラックのカーブを曲がるのが、低学年との大きな違いです。

みんな体を傾けて上手にコーナーを回ることができていて、さすが中学年！かっこよかったです！

6年生

「赤白対抗リレー」

2つ目の競技は、「赤白対抗リレー」。最高学年の全力疾走は、見応えがありました。バトンパスのレベルも高く、6年生の“すごみ”を感じました。



全力で走る姿はもちろんのこと、仲間を応援する姿も、とってもすてきな6年生でした。

「応援合戦」

今年度は、昨年度見合わせた応援合戦が復活しました。ただ、一昨年度までとは違い、ペア学年ごとの応援です。

応援の方法は、4・5・6年生の先生方と子どもたちが中心となって考えました。それぞれの発達段階や実態に合わせて内容を決めため、応援の方法や内容は少しずつ異なるものになりました。初めての試みでしたが、練習の段階から応援団の子どもたちはやる気満々でした。当日も、どの学年も必死に自分の組を鼓舞する姿が見られ、とても立派でした。

下学年の子どもたちは、お兄さんお姉さんたちが一生懸命応援合戦を繰り広げる姿を見ることが、大きな勉強になったのではないかと思います。



5月30日(日)の中日新聞の朝刊一面に、「中止・延期・無観客・決行 運動会悩む『正解』」という記事がありました。本校でも、スポーツデー開催の可否その内容が、簡単に決まったわけではありません。昨年度から何度も協議を重ね、教育委員会からのガイドラインやこの地域の感染症の状況、保護者の皆さんの思い、そして何より、子どもたちにとって何がベストの形なのかを考えてきました。先生たちも、手探りの中の指導でした。感染症を気にしなくていいのであれば、やりたいこと、経験させたいことは山のようにあります。が、感染症対策のため、できることは限られています。その中で、少しでも子どもたちにとって価値のある行事にするために、各学年が知恵を絞って内容や練習方法を決定し、スポーツデーの開催に至りました。今回の体育的行事の在り方が、唯一の正解だったとは思っていません。不足した部分もあったかと思えますし、重視するものや立場によっても、正解が変わって当然と考えます。しかし、ここに至るまでの経緯は決して簡単なものではなく、議論の末に出した結論であるということについては、ご理解いただきたいところです。感染症の状況は見通せず、今後迷いながらの学校運営となりそうです。しかし、スポーツデー当日、子どもたちのほしける笑顔をたくさん見ることができました。これからも、その笑顔に会うために、教職員一同、引き続き、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

迷いなく、でも前へ